令和４年度

久美浜学園保幼小中一貫教育

７年目の推進

久美浜学園は、久美浜の
7つの、学校、園、所の総称

久美浜学園保幼小中一貫教育

保育、幼児教育、小中学校の義務教育を一体とし、統一的で一貫性のある指導・カリキュラムのもと、園所、小中学校が目標や指導方法を共有し緊密に連携、協働して進める教育の方法

「目指す子ども像」

久美浜の子どもをどのように育てるか、どんな力を身につけさせるかを定めました。学校、園、所はもとより、家庭や地域でもこうあってほしいという子ども像です。子育てや教育の方向性を示し、義務教育の修了までに実現したい「子ども像」です。

京丹後市の目指す子ども像

〇将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子どもを育成する〇
- ・基礎・基本を確実に身につけ、質の高い学力をもった子ども
- ・規範意識をもち、豊かな人間関係を築く子ども
- ・自分自身を高め続けるたくましい心と体に満ちた子ども

久美浜学園の目指す子ども像

（知）意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子
（徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子
（体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子

第2期京都府教育振興プラン(目指す人間像)※令和3年度策定

〇めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人

久美浜学園保幼小中一貫教育のホームページをぜひご覧ください。☞
http://www.Kyoto-be.ne.jp/kumihama-jhs/cms/

久美浜学園保幼小中一貫教育は７年目になります。始まった当初小学校1年生だった子どもたちが一貫教育のもとで成長し、4月に中学校へ入学してきました。久美浜中の校長先生が式辞の中で、「7年生としてのあなた」と表現されました。全く別の世界でなく、また下級生からのやり直しでなく、学園を卒業するまでのあと3年ととらえ、階段を一段ずつのぼり自分を成長させるよう励まされました。校舎は離れていても、一貫校としてつながりのある教育が推進されているということです。保育も含め、久美浜学園の子育て（保育及び教育活動）は、ようやく一本の線で繋がったという感じがします。

2年以上続くコロナ禍は、保育・教育現場にも様々な影を落としています。しかし、コロナ禍でもできることを探り、英知をしぼり進めてきたことで、平常時以上の成果を残した活動も多くあります。今後さらに地域総がかりで子どもたちを育てるという保幼小中一貫教育の理念に確信をもち、ICTを活用するなど、今できることを駆使しながら、自信をもって、7年目の教育活動を進めていきたいと思います。

学園教育目標

ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成

「目指す子ども像」から始まる様々な目標と「共通指導事項」が、久美浜学園の教育の方向性です。どんな子どもを育てるのか、何を大事にして日々の具体的な活動をするのかなどの指針になります。これを学園で統一して目指します。

重点目標

意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成
～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

指導の重点【学力向上】

1　基礎・基本の徹底
2　主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)
3　家庭学習時間の確保

「学力向上」が、5年目から10年目までの重点課題です。1時間1時間の授業の充実、具体的な学力定着の方策など、教職員が一丸となって取り組んでいきます。

共通指導事項(学力向上)

〇学習課題・家庭学習をしっかりする子どもを育てる。
〇相手の顔を見て話を聞く子どもを育てる。
〇時間・時刻を守る子どもを育てる。

共通指導事項(生徒指導)

〇あいさつ・返事をする子どもを育てる。
〇勤労生産・奉仕活動を協力してする子どもを育てる。

「共通指導事項」は、学園で指導する重要な項目です。3校の6年生が中学校に集まった時も、誰もが話している先生の顔を見て話が聞けます。

取組の柱1

幼児児童生徒の成長発達に、学園の全教職員で責任を持つ。～全教職員がチームとして協働意識を醸成
〇「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を推進
学園テーマとして「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、ICTを活用しながら、幼児児童生徒が自ら考えを深める授業を創る。

「主体的･対話的で深い学び」を目指し、子どもが関わり合って学習を進め、主体的に学ぶ力を伸ばします。1人1台のタブレット、電子黒板などICTを活用します。

丹後や久美浜を学ぶ「丹後学」を進め、ふるさとを愛する心を育てます。

教員が授業を参観し指導法を学び合います。(対話と理解)

取組の柱2

規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校・園所づくり、授業づくり
- ○生徒指導の三機能(自己決定、自己存在感、共感的人間関係)を活かした「わかる授業」と「学級経営・特別活動」の充実により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育成
- ○学校・学年単位の授業研究推進と「主体的に学びに向かう力」の育成
- ○当たり前のことが当たり前にできる雰囲気づくりで基礎・基本の徹底

聞く、話す、時間を守るなど、学習規律や学習に向かう力を身に付けさせます。

チーム活動、異年齢活動などを通して、困難なことがあっても力を合わせ協力することを学ばせます。

「当たり前のことが当たり前にでき」、「関わり合って学ぶ」授業を進めます。

取組の柱3

子どもの交流行事、教員の指導交流の推進による行動連携
- ○共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける交流行事・交流授業
- ○豊かな教科指導を目指す教員の指導交流

5歳児交流会でかぶと山登山

同学年で交流する小小連携学習

6年生の部活動体験、合唱祭取組参観

児童会生徒会のあいさつ運動やSDGsの取組

小学校での専科授業

体験授業・体験入学

コンサートでの園児との交流

昨年度、コロナ禍であっても、感染防止の対策を講じ、工夫しながら、様々な交流事業を取り組みました。SDGsなど新しい取組も生まれ多くの成果を残すことができました。子どもや教員の交流は、一貫教育の重要な柱となる取組です。児童生徒1人1台のタブレットを活用し、Webで配信するなど、今年度も工夫しながら交流事業を進めていきます。

取組の柱４

保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組
　〇PTA・保護者会、学園学校運営協議会、地域学校協働本部との連携
　〇家庭学習時間の確保に向けた連携

学園会長会議、家庭教育員会

久美浜学園PTA・保護者会

　会長会議、家庭教育委員会に、園所の保護者会からも参加し、学園として統一してできる取組を考えていきます。
　〇一斉あいさつ運動(6/2、10/5、1/11)
　〇家庭学習がんばり週間(学園の取組と連動して実施)
　〇規範意識を醸成するためのSNSに関する教育講演会の実施

学園あいさつ運動

久美浜学園学校運営協議会

　子どもたちを心豊かに育て、「久美浜を支える人」を育てる教育環境づくりを進めるため、地域、家庭、学校が、目標や課題を共有し、連携・協働していきます。子どもに係る様々な活動をされている団体や機関の代表者の方に、年間3回の会議(5/12、10/27、2/21)に出席していただきます。学園の基本方針の承認、学園の取組や活動評価の報告、学園の教育について意見聴取、学園の取組参観などを進めます。

地域遊び教室～コロナ禍の中、2年間、活動が十分できていないが、再開の準備はしているとのことです。

見守り隊の活動～毎日たくさんの方が、通学路に出ておられます。

　PTA・保護者会一斉あいさつ運動の日は、見守り隊の方に加えて、区長会（自治会）、民生児童委員会など、学校運営協議会の各団体にお願いし、スクールバスの停留所など、各地域の方にも出ていただけるようにしていきます。

保幼小中一貫教育、昨年度の成果と課題

1　休校措置はなく、日々の教育活動は実施

　コロナ禍は続いたが、一昨年のような長期の休校はなかった。できたことを整理すると少しずつでも教育活動が進み、子どもに力がついていることを感じた。コロナ禍だからこそ、できることを悩み、考え、工夫した分、例年より充実し効果の上がった取組も多くあった。

2　GIGAスクール構想により1人1台のタブレットが配置され授業形態や子どもの学びが変化

　特に久美浜は、一昨年の研究実践もあり、先生方、子どもたちがタブレットの扱いに抵抗感がなく、自然に活用されている。調べ学習でも、考えの交流でも、発表でも、タブレットは学習の道具として非常に有効である。今後も学力向上に有効な活用の仕方が見いだされる可能性がある。また、リモート会議が定着するなど、ICTの活用により、コロナ禍の制限を補い、本来の目的を達成できた事例が多くある。

3　学力の向上、安定

　基礎・基本の徹底を図ったり、主体的に学ぶ力を伸長させる授業づくりを進めたりしてきた。家庭学習時間を確保するため、「家庭学習がんばり週間」の取組を、園所3歳から、年3回取り組んだ。また、落ち着いた学校・園所づくりや授業づくりも大事にして取組を進めてきた。学習する雰囲気も作られ、府や国の統一テストでも徐々に成果が出ている。小中学校ともに伸びしろが大きい学年もあり、一定、学力の向上や安定の傾向にある。更に教科ごとの小小、小中連携を充実していくとともに、定量評価が可能な学力分析を進めていく必要がある。

4　コロナ禍による生徒や家庭環境の不安定さによる不適応生徒の増加

　2学期当初の市内感染拡大、ワクチン接種に係る欠席や体調不良、行事の延期などの不安定さ、また、家庭の急激な環境変化により、不適応に発展するケースがあった。一方で、コロナ禍の中での困難な保護者への連携や別室での学習指導の充実、オンラインの活用などの地道な取組により教室復帰や進路目標に向かい始めた生徒も増えた。今後、子育ての基盤である家庭教育を地域で支える仕組みづくりが急がれる。

5　学園運営協議会を軸とした、保護者、地域連携の模索

　職員の夏の研修会では、学校運営協議会の活動について協議会長からお話をしていただいた。「社会に開かれた教育課程」作りのために、頼もしい組織があることを教員が理解するよい機会となった。今後、学校園所が更に地域の中に溶け込み協働した教育活動を可能にするため教員の意識の向上が求められる。見守り活動は継続してもらっているが、コロナ禍で各団体の子どもに関わる活動も進まない状況もあり、再構築に期待している。